senior resident program
Saitama Citizens Medical Center

総合診療専門研修プログラム

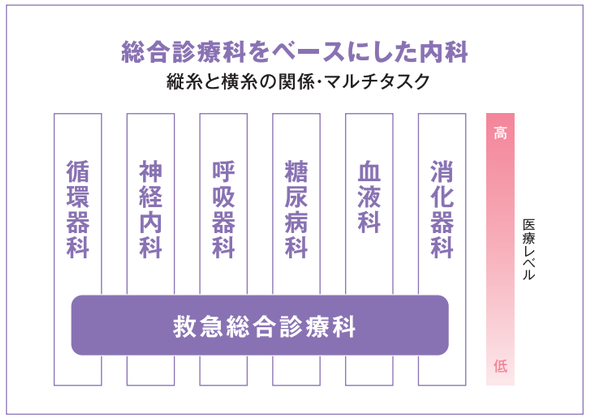
高いプロフェッショナリズムと
コミュニケーション能力を兼ね備えた
“患者の軸”になれる医師に

2018年度から疾患管理の軸になれる医師の育成をスタート。救急総合診療科に属して急性期内科系疾患の管理を中心に学び、小児科、地域医療などをローテートし不足部分を補います。診療所、地域医療支援病院から大学病院まで、置かれた場所で活躍できるアカデミックな総合診療専門医を目指せます。

1年目　内科 ← → さいたま市民医療センター

2年目　小児科3ヵ月 ← → 救急3ヵ月 ← → さいたま市民医療センター

3年目　総診Ⅱ 6ヵ月 ← → さいたま市民医療センター　総診Ⅰ 6ヵ月 ← → 連携施設　総診Ⅰ 6ヵ月 ← → 連携施設



《 指導体制と特徴 》

当センターの内科系指導医は全員総合診療の経験を有し、かつサブスペシャリティの専門医として臓器別専門内科を担当しています。ERと内科を一体運営し、臓器別内科の壁を設けずに“内科”としており、救急外来から急性期病棟、回復期病棟までシームレスな診療を行います。治療方針は内科系医師全員が一堂に会する毎朝のカンファレンスで決定します。臓器別内科チームが縦糸、救急総合診療科が横糸となり、患者毎に最適なチームを構成する体制は、幅広い境域を研修すべき総合診療専門医研修に最適なシステムであると自負しています。

《 カンファレンス 》

- モーニングカンファレンス　：毎朝、内科系医師全員で全ての新入院患者を対象にディスカッションを行っています。
- 内科総合カンファレンス　：毎月曜日、興味深い症例を検討しています。
- ケーススタディ　：他病院・医師会の先生方を招き、臨床推論のオープンカンファレンスを開催しています。
- 外部講師による院内講演会（数回/年）：外部講師を招いて講演会を実施します。
- 放射線読影カンファレンス　：放射線専門医によるレクチャーを実施しています。
- 毎週1回院内勉強会（後日WEB配信あり）

《 シミュレーション教育と電子教科書 》

シミュレーション教育として、BLSやICLS、JMECC（内科救急・ICLS講習会）を院内で開催。Saitama Stroke Networkの基幹病院に認定されており、ISLS（Immediate Stroke Life Support 神経救急蘇生）も実施し、救急総合診療科ではt-PA投与から脳血管内治療まで主体的に行っています。電子教科書は欧米のホスピタリストも用いているUpToDate、英文臨床雑誌や教科書が読めるClinical Keyや今日の臨床サポートを採用。また、抄読会としてACP（米国内科学会）journal clubを毎週実施しています。

《 地域医療の実践（総合診療Ⅰ） 》

当センターでは役割分担をしており、成人の「病気」は内科が担当し、成人の「ケガ」は外科が担当していますが、総診Ⅰでは一人ですべての疾患に対応する能力を身につけます。地域医療のプログラムとしてへき地医療の実践にも力を入れていて、兵庫県の公立浜坂病院や公立村岡病院で地域包括ケアシステムの実際を学びます。（希望に応じてさいたま市内での実施も可能）そのほか、明医研ハーモニークリニックと連携し病院医療から在宅医療へつなぐTransitional Careの研修もあります。さらに、希望に応じて日本医師会認定産業医の資格を取得したり、DMATの隊員に加わり災害医療の訓練を受けることも可能です。

《 連携施設 》

［ 総診Ⅰ ］
- 医療法人明医研ハーモニークリニック
- ちづるファミリークリニック
- 公立浜坂病院
- 公立村岡病院
- 奏診療所
- 平陽会いわさきクリニック

［ 総診Ⅱ ］
- 自治医科大学附属さいたま医療センター

給　与　1年次 56.8万円/月（日直・夜勤手当含む）　2年次 66.1万円/月（日直・夜勤手当含む）　3年次 67.4万円/月（日直・夜勤手当含む）
賞　与　1年次 106.3万円/年　2年次 181.2万円/年　3年次 186.7万円/年

Specializing in pediatrics program
Saitama Citizens Medical Center

小児科専門研修プログラム

二次診療のcommon disease、大学病院2施設での高度医療を経験し、subspecialityを決めて次のステージへ

2020年度から、小児科専門研修プログラムを行っています。紹介・二次救急への対応で、小児医療の中で最も件数の多いcommon diseaseの診療を経験できます。さらに大学病院2施設で半年ずつ研修し、高度三次医療も経験することが出来ます。研修終了後に小児科専門医の受験資格が得られます。

さいたま市からの委託事業として小児二次救急診療を24時間365日担当しています。さいたま市内で救急搬送される小児内因性疾患の半数近くを受け入れ、埼玉県内では最も多い年間約3,000件の要請に対応しています。この豊富な症例を経験することにより、充実した小児科研修となるでしょう。忙しいだけでなく安全に医療を提供できるよう、小児科専門医を含めた複数の医師による診療体制を整備しており、専攻医は上級医師と相談しながら診療を行います。

1年目 6ヵ月 さいたま市民医療センター → 6ヵ月 東京大学医学部附属病院 → 2年目 12ヵ月 さいたま市民医療センター → 3年目 6ヵ月 帝京大学医学部附属病院 → 6ヵ月 さいたま市民医療センター

地域医療支援病院として、地域の一次診療施設から専門的な診療が必要と判断された紹介患者を主な対象とするため、外来精査・入院加療をじっくりと行うことができます。当センター常勤医、大学・小児病院からの非常勤医による小児科専門外来も行っており、自分の将来のサブスペシャリティとして考えている分野の専門外来の見学・診療を経験し、次のステップにつなげることが出来ます。
地域の総合医としての小児科医を目指す方も、アレルギーや神経や心身症に興味がある方も、全般を学びながら、自分の次の段階、サブスペシャリティを決めていくことが出来ます。研修終了後に小児科専門医の受験資格が得られます。

《 専門外来 》

食物アレルギーにおいては埼玉県の中心的施設として、多数の患児を受け入れており、食物経口負荷試験や経口免疫療法に積極的に取り組んでいます。日本アレルギー学会により研修施設として認定されています。
小児神経については4人の非常勤の医師が外来を担当しており、多様な外来の見学、自分の症例のコンサルテーションが可能です。
小児心身症は常勤・非常勤の医師が担当しており、摂食障害に対する長期入院加療も行っています。
小児内分泌外来は常勤・非常勤の医師が担当しており、入院での薬物負荷成長ホルモン分泌試験、外来での1型糖尿病の管理などを行っています。
小児腎臓外来は大学からの非常勤の医師が担当し、入院は常勤医が担当します。ネフローゼ症候群や溶連菌感染後糸球体腎炎、腎盂腎炎など多彩な腎疾患に大学と連携し対応しています。
小児循環器外来は大学・小児病院からの非常勤医師が週替わりで担当しています。
小児血液外来は、大学からの非常勤医師が担当しています。

《 指導体制 》

小児科専門医取得後10年目以上でアレルギー、内分泌、心身症、遺伝などをサブスペシャリティとする指導医が在籍しています。神経、循環器、血液、腎臓などの分野については、専門外来を担当する医師の指導を受けられます。3年間の専門研修の間に、自分のサブスペシャリティを見つけて、次のステップの相談をすることができます。初期研修医、専攻医、小児科専門医によるチームで診療を行っています。

《 カンファレンス 》

- 毎朝チーム毎に治療方針を決定し、毎夕科全体でSign Out カンファレンスを行います。
- 月2回小児科カンファレンスを行い、症例検討をします。
- 院外の下記カンファレンス・学会に参加し、発表を行っています。
  小児科学会埼玉地方会
  埼玉県小児重症患者診療ネットワーク症例検討会

《 連携施設とのローテーション 》

当センターはNICU、PICUはありません。新生児医療、三次救急、先天性心疾患、血液疾患などの診療は連携する大学病院で学ぶことになります。東京大学医学部附属病院で6ヵ月勤務し、血液疾患、神経疾患、心疾患やPICUでの高次救急医療を学びます。帝京大学医学部附属病院で6ヵ月勤務し、神経疾患、代謝疾患、心疾患などの診療やNICUの新生児医療を学びます。

《 電子図書 》

UpToDate、Clinical Key、今日の臨床サポートなどが利用可能です。

《 連携施設 》

- 東京大学医学部附属病院
- 帝京大学医学部附属病院

給与 1年次 56.8万円/月（日直・夜勤手当含む） 2年次 66.1万円/月（日直・夜勤手当含む） 3年次 67.4万円/月（日直・夜勤手当含む）
賞与 1年次 106.3万円/年 2年次 181.2万円/年 3年次 186.7万円/年

Specializing in internal medicine program
Saitama Citizens Medical Center

内科専門研修プログラム

専門診療と総合診療を両立し
内科2次急性期診療を主軸とした
地域から求められる医師を目指す

2023年度から内科専門研修プログラムがスタート、内科急性期診療の中心を担います。救急・総合診療だけでなく、希望する専門診療とのハイブリッド型研修で、二刀流の内科専門医を目指すことも可能です。外部研修もさいたま市内で行うため、さいたまモデルの地域医療型研修プログラムです。

当センターでは3年間の内科専門研修プログラムで内科専門医を目指します。特に救急診療が充実しており、豊富な症例経験から多くの学びが得られる環境です。またスタッフとのチームで診療にあたるため、十分なバックアップの下、安心して研修を進められます。当センターの一員として専門診療研修へ移行することも可能ですが、より高い専門性を身につけるため、ステップアップを目指す医師への支援も行っていきます。

1年目 ← 12ヵ月 → さいたま市民医療センター

2年目 ← 12ヵ月 → 選択（さいたま市内の他病院）

3年目 ← 12ヵ月 → さいたま市民医療センター

《 指導体制と特徴 》

当センターでは毎朝内科医師全員による新入院カンファレンスを行い、活発なディスカッションを行っています。研修医および専攻医はプレゼンテーションの機会が多く、幅広い視点からの学びが実践されます。当センターの内科医は病院総合医としてのホスピタリストマインドを持ち、開院当初より「救急総合診療と専門内科の融合」、「ジェネラリストの育成」をコンセプトとし、地域のニーズにこたえてきました。日ごろから内科全領域を意識した診療を行っていますが、適宜各専門医からの指導が受けやすい環境も整っています。

《 連携施設 》

- 自治医科大学附属さいたま医療センター
- さいたま赤十字病院
- さいたま市立病院
- JCHO埼玉メディカルセンター

※連携施設研修ではより専門性の高い診療経験など希望に応じて研修計画を検討します。

《 チーム医療の実践 》

人口の高齢化に伴い、当センターでも高齢者の入院が増加しています。高齢者のデコンディショニングから日常生活への復帰に向けた支援を多職種協働（interprofessional work: IPW）の理念に基づき、包括的な医療の提供を心がけています。高齢者のmultimorbidityやadvance care planning（ACP）の課題についても積極的に取り組み、院内横断的診療チームからの助言も得ながら、患者さんの個別性を考慮した治療目標を計画しています。希望する専攻医は横断的診療チームへ参加し、チーム医療を経験することも可能です。

《 チーム医療 》

● 高齢者サポートチーム
認知症ケア回診、ポリファーマシーカンファレンス、せん妄対策を行っています。

● モニターアラームコントロールチーム（MACT）
心電図モニタ装着の妥当性、アラーム設定、適切な誘導について助言しています。

● 緩和ケアチーム（PCT）
がん患者さんへのケアと薬物療法について毎週木曜日に回診とカンファレンスを行っています。

● 栄養サポートチーム（NST）
栄養ケアに関する多職種協働を多角的に実践しています。

● 嚥下サポートチーム（EST）
嚥下機能障害が疑われる症例で機能評価および経口摂取の支援を行っています。

● 呼吸ケアチーム（RST）
人工呼吸器、NPPV等のデバイス装着症例を回診しています。

● 感染対策チーム（ICT）
各病棟での培養状況のサーベランスを行い、適宜助言を行っています。

● 抗菌薬適正使用支援チーム（AST）
抗菌薬使用状況のモニタリングと治療薬選択についてコンサルトを受けます。

● 褥瘡対策チーム
褥瘡予防対策と脆弱な皮膚を守るスキンケアを多職種と協働し専門的なケアの提供に取り組んでいます。

給　与　1年次 56.8万円/月（日直・夜勤手当含む）　2年次 66.1万円/月（日直・夜勤手当含む）　3年次 67.4万円/月（日直・夜勤手当含む）
賞　与　1年次 106.3万円/年　2年次 181.2万円/年　3年次 186.7万円/年

curriculum
Saitama Citizens Medical Center

選択科目

総合的な視野を持った医師の養成が可能な指導医がいる環境で、幅広い豊富な臨床経験を積むことができます。

大学病院では経験できない地域医療と密着した各診療科での疾患を経験でき、放射線科、病理診断科における診断学、病理学の研修が可能です。

《整形外科》

上級医とペアを組み、指導を受けながら病棟・外来での業務や手術を通して、整形外科の基本的知識、技術の習得を目指します。当科は初期研修にて選択が可能で、期間中に本人の希望があれば、他病院の見学や学会などへの斡旋・紹介も積極的に行います。

《泌尿器科》

人口の高齢化に伴った泌尿器疾患（前立腺肥大症、前立腺癌、尿失禁など）の増加により、泌尿器科の臨床的需要は増大傾向にあります。初期研修時の目標は泌尿器科領域のプライマリ・ケアならびに泌尿器科特有の基本的検査、治療手技、診断知識の取得です。泌尿器科指導医による研修の下、短期間に習得できるカリキュラムを考えています。

《耳鼻咽喉科》

急性気道疾患やめまい疾患のプライマリ・ケアを学ぶことができます。具体的には、各検査や処置の習得を目標としたカリキュラムを考えています。また、実際の手術（鼓室形成術、鼻副鼻腔内視鏡手術、口蓋扁桃摘出術をはじめとする頸部良性手術）に参加することにより、局所解剖や各疾患についての理解を深めます。

《病理診断科》

内科や外科などから提出された検体の切り出しの仕方や病理診断の仕方を習得できます。病理解剖では病気で亡くなられた患者さんの病気の状態を、肉眼所見と顕微鏡所見から学ぶことができます。

《脳神経外科》

脳血管障害や頭部外傷など、緊急対応の必要な疾患が多いのが当科の特徴です。急性期血行再建治療エビデンスの確立により、近年さらに急性期治療の重要性が注目されています。これらプライマリ・ケアの習得を目標としたカリキュラムを受けることができます。

《放射線科》

CT、MRI、血管造影を中心とした研修を行います。CT、MRIは撮像原理や造影理論、基本画像と解剖の理解、頭部・胸部・腹部の基本的疾患の診断、レポート作成が目標です。血管造影は主に腹部インターベンションの助手として、穿刺、カテーテル操作、圧迫止血、患者管理を修得することを目標とします。

《麻酔科》

当センターにおける麻酔科研修では、外科的侵襲から患者さんを護るという現代麻酔の基礎を、手術麻酔を通じて理解することを目標にしています。また、救命処置の基本となる気道確保、血管確保といった基本手技や循環・呼吸・体液管理といった全身管理の知識を理解・取得できるようにしています。

《リハビリテーション科》

回復期は急性期と生活（維持）期を結ぶ大切なステップとなる時期です。医療保険に加え、介護保険の利用を促し、介護支援専門員などと連携しながら、各種住宅サービスを確保していきます。患者・家族を中心に、医療・福祉・保健・地域は一体となって治療していく分野です。

《皮膚科》

将来、皮膚科を標榜する先生には、最も重要な皮疹の診かたから丁寧に、内科系を志す先生には、将来出くわす可能性の高い疾患を中心に、外科系を目指す先生には、創傷の診かたと治療方法について習得出来る様に指導します。

working condition
Saitama Citizens Medical Center

設備・待遇・条件

エントランス

DMAT

リハビリ室

手術室

職場設備

食堂

宿舎

▶ 勤務条件

［ 勤務時間 ］ 午前8時30分～午後5時30分 ※週40時間勤務
［ 日直・夜勤 ］ 月平均3～4回
［ 休日休暇 ］ 日曜日、祝祭日、年末年始（12/30～1/3）、夏季休暇3日間、年次有給休暇（初年度は10日）、忌引き休暇等

▶ 社会保険等

［ 社会保険等 ］ 労働者災害補償保険、雇用保険、健康保険、厚生年金保険に加入
［ 健康管理 ］ 定期健康診断、B型肝炎・インフルエンザ等の予防接種
［ 医師賠償責任保険 ］ 病院で負担（初期研修のみ）

▶ 研修中の外部活動

- 外部研修活動　学会、研究会への参加可。学会発表または研修等のための出張の承認を得られたときは旅費を支給
- 外部診療活動　研修期間中は外部の診療活動（アルバイト）は禁止（初期研修のみ）

研修医は2年間の初期研修終了後、当センターが基幹病院として策定した日本専門医機構認定専門医プログラム（後期研修プログラム）に進むことができる。更に後期研修専門医プログラム連携施設としてさいたま市民医療センターが参加する基幹病院のプログラムへ応募することができる。